

新連載 スタート

枯木峠というのがある。江町に抜ける道(府道綾部市内の北西の端にあたる西坂町と加佐郡大江町南有路とを結ぶ。車で物部から大

枯木延命地蔵尊

西坂町

その府道を大江町側に少し入った所に、大人の背丈よりちょっと高い石造りの二つの道標が道路をはさんで今も並んで立つ。「従是東(これよりひがし)丹波国何鹿郡」「従是北丹後国加佐郡」と刻まれており、都と丹後とを結ぶ京街道として往来が絶えなかったであり、峠の手前(西坂町内)の道沿いにかわらぶきの地蔵堂が建っているのに気づく旅人は多いのではないかと。その中には台座の部分を高め一・一メートルを超える「枯木延命地蔵尊」が祭られ、地元をはじめ大江町や宮津市といった市外からも日々、手を合わせに訪れる人がいる。額縁に入れられ、堂内に飾られている地蔵尊の由来十八、十九年のころだった

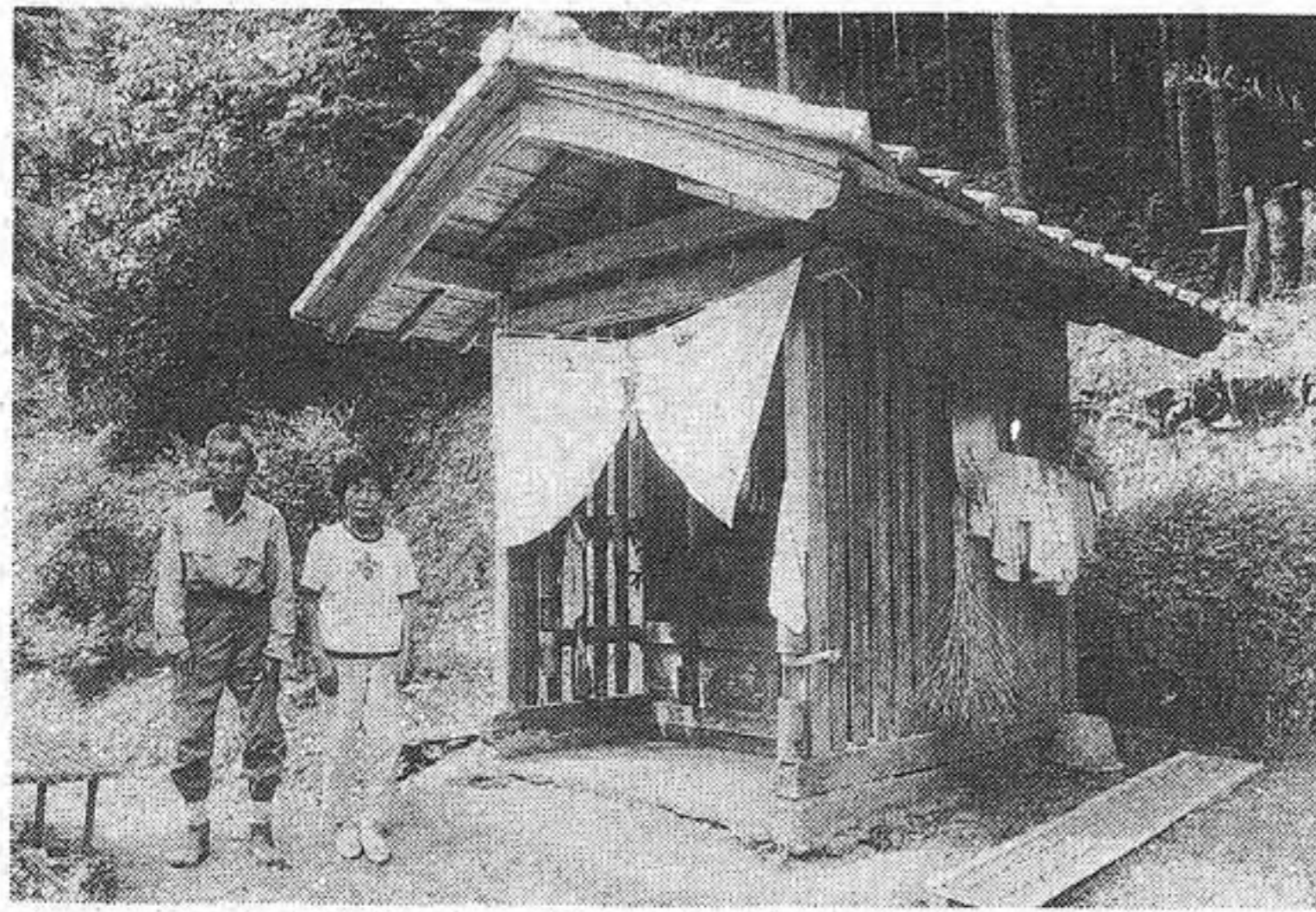
今も変わらぬ温和な表情

住民有志らが堂を再建し守り継ぐ

屋根がわら改修の時に発起人の一人だった森永さんが主に手がけて新しい水や花が供えられ、頭巾(ずきん)や前かけなどの供物が絶えることがない。「どこのどなたにやってもらっているか分からないが、大変有り難い」と森永さん。

一時期、忘れられた存在となったお地蔵さんは、科学万能の時代になって一段と人々の信仰を集めていく。そのことを知ってか知らずか、温和な表情はいつの日も変わらない。

積み立てている森永さんが、その一部の一万円を地震の被災地への義援金として市役所に寄託したのだ。温和な地蔵尊の顔がさらに穏やかになっていくように見えた。



枯木峠に建立されている延命地蔵尊の地蔵堂と、森永登志雄さん、一都代さん夫妻(西坂町で)

あろう往時の書には、地蔵尊が「この峠にぎわいをうかがわせる。今も主要地方道として交通量が多いが、「峠越え」の風情を感じるドライバーは皆無に近いだろう。しかし、大きな看板が立っていることも、道端に地蔵尊を祭るこ

排仏思想の影響で一時は野ざらしに

この地蔵尊には、奉賛会といった、住民が自主的に守り継いでいくための組織はない。そのため、周辺の草刈りといった掃除のほ

らしい。五十一年には堂の雨もりがひどくなっていたことから、同町の大槻亮蔵さんと田仲宗一さん、森永登志雄さんの三人が発起人となって屋根がわらを改修した。その際には地元住民から多くの浄財が寄せられた。

地蔵堂横には十年前にさい銭の盗難を防ぐために街路灯、堂の前には昨年十一月、マイカーによる参拝がしやすいように駐車場がそれぞれ整備された。

地蔵尊には毎日のように

さい銭の一部を北海道震災地へ送る

今秋、地蔵尊の慈悲は、遠く北海道の地に届こうとしている。今後の改修などに役立てるためさい銭を